MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

# ミステリ読書案内

２０２２．１２．１０　発行元
第 425 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

## 米澤穂信「栞と嘘の季節」

１１月に集英社から米澤穂信の『栞と嘘の季節』が出た。以前に出た『本と鍵の季節』の続編に当たる。これで『図書委員』シリーズが今後も続きそうな雰囲気が出てきた。読んでみての感想を述べてみたい。

### 今度は長編なのかな？

前の『本と鍵の季節』は連作短編集のような形式だったので、本書も同じ形を取っているのかと思ったら、今回は完全な長編ミステリだった。帯にもあるように「青春ミステリ長編」であることは間違いない。

「日常系の謎」をテーマにした作品は、その多くが連作短編になっている。身近にある比較的小さな謎を２００枚以上に引っ張っていくのには、それだけの力量が必要だ。今現在活躍している作家の中で「日常の謎」から出発して、一冊の長編に仕上げていけるのは北村薫と米澤穂信くらいなものだろう。

「学園もの」ミステリで『図書委員シリーズ』と名付けられるようになった本書の中身は…。

### 図書委員と『栞』

図書委員の堀川次郎と松倉詩門の二人が中心になる。今、学校の図書館の存在は難しい位置にある。活用度があまり高くないのだ。本書でも、図書室を訪れる生徒の数はそれほど多くないようだ。でも図書委員は責任感を持って仕事をこなす。返却された本の中に挟まっているものはないかを確認。一枚の「栞」を発見。その栞にはトリカブトの押し花がラミネート加工されていたのだ。毒物。二人はここで考える。「これが意味することは何か…」

そして、別の場所で関連するものを見つけ、そこに関わっている生徒たちに接触を試みる。そうこうしているうちに校内で事件が持ち上がる。警察が捜査に入ってきている様子は見られないが。

### いろいろな『嘘』が氾濫

題名にあるとおり本書では「嘘」がいろんな形で登場し、考えさせるきっかけになっている。そして登場するのが瀬野という女子生徒。「その栞は自分のものだ」。図書委員長の東谷さんの動きも何かありそうだ。この辺の読みあいと推理の積み重ねが米澤らしいところ。

帯には「わたしたちには人を殺せる“切り札”が必要だった」という台詞が載っている。トリカブトがそれに当たるのだが、台詞の意味合いはいかにも高校生らしい心理とも言えるだろう。「わたしたち」と複数形になっていることもポイントなのか…。

最後まで緊張感を持って書かれている。派手な活劇など全くないが一気に結末まで読者を引っ張っていく造りはさすがである。

### 「毒物」について

本書の毒物はトリカブト。アコニチン系アルカロイド。ミステリのなかでの毒物の扱いは難しいなぁと感じる。私も理科系の出身なのだが「毒物」に関してはほとんど知識がない。トリカブトの花、しかも押し花にした状態でどの程度の量が含まれているのか見当もつかない。最もそんなことが世の中に広く知れ渡ることは別の意味で問題で、わからないままの方がよいのだろうと思う。フグの毒、キノコの毒、蛇の毒…。生物系だけでもいろいろある。

### 米澤穂信・小市民シリーズ

１．春季限定
　　いちごタルト事件
２．夏季限定
　　トロピカルパフェ事件
３．秋季限定栗きんとん事件
４．巴里マカロンの謎

『秋季限定』だけが上下 2 巻構成になっている。いずれも創元推理文庫。

### 『春季限定いちごタルト事件』

この『ミステリ読書案内』第６号で少しだけ取り上げたけれども、内容には踏み込んでいなかったので、再度書いてみようと考えた。私が最初に読んだ米澤穂信作品が本書。２００４年創元推理文庫書下ろし。本書を読んで慌てて『氷菓』も読んだという経過。『古典部シリーズ』よりも少しだけ『小市民シリーズ』の方に私の気持ちが偏っているのは、この最初の出会いの順番によるものらしい。

このシリーズの魅力は小鳩君と小山内さんの二人の関係が生み出すものだ。本書の出だしでは二人が船戸高校に合格する場面からスタートする。ぼく（小鳩常悟郎）と小山内ゆきは中学校三年生の初夏から一緒にいる。別に恋愛関係なわけではない。甘いものを食べる時だけ、小山内さんの表情がゆるむ。「日々の平穏と安全のために…」ひたすら事を荒立てないように、目立たない位置にいたいのに…、なぜか事件に巻き込まれてしまう。第一話の『羊の着ぐるみ』では、小学校で一緒だった堂島健吾に呼び出されて、女子生徒の消えたポシェットを捜すことになる。すぐには見つからないのだが、小鳩君と小山内さんは一人一人の生徒の動きを分析して、ある結論に至る。もちろん、殺人なんかまったく出てこない。日常の中のふとした謎……。